

INSIGHT

レスキュー時の取り扱い

本書は、ハイブリッド車「INSIGHT」のレスキュー活動を行う際に、特に注意していただきたい事項について説明したものです。次ページより該当する年式を選択のうえ、該当箇所をよくお読みいただき、記載されている注意事項を遵守してください。

2026年3月

本田技研工業株式会社

確認したい車両を選択してください（該当ページにリンクします）

INSIGHT



販売期間： 2018.12～
2022.12

INSIGHT



販売期間： 2009.02～
2014.03

ハイブリッド車 レスキュー時の取り扱い

INSIGHT



平成30年12月

改訂1：令和2年1月

本田技研工業株式会社

※変化点は赤字で記載しております

はじめに

本書は、ハイブリッド車「INSIGHT」のレスキュー活動をする際に注意していただきたい事項を説明しています。
安全に作業していただくためにも、本書をよくお読みいただき注意 事項を遵守してください。




INSIGHTは、モータとガソリン エンジンを搭載しており、その両方を動力源として使用しています。モータは高電圧バッテリーやジェネレータ（発電機）から供給される電気により駆動され、高電圧バッテリーはジェネレータだけでなく走行中の回生ブレーキ等によっても充電されま

※改訂1：けん引要領の改訂

本田技研工業株式会社

安全に関する表示について

以下のシンボル マークのある項目は、安全に関して特に重要な事項を説明しています。必ずお読みください。

 危険	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの
 警告	指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの
 注意	指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの



※車両の高電圧部位には左図のような高電圧警告マークが貼付されています。

目次

1. INSIGHTの見分け方.....	2
2. ハイブリッド車について.....	3
■高電圧部位	3
■高電圧の隔離	4
■高電圧の遮断	4
■リチウムイオン バッテリーについて	4
■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置	5
■車両の固定および安定を図る際は	5
3. レスキュー作業時の注意.....	6
■処置概要	6
■補機類の事前処理	6
■乗員を車室内から救助する際は	6
■火災時の注意と処置	8
■水没時の注意と処置	8
■リチウムイオン バッテリー破損時の注意と処置	8
■高電圧システムの遮断方法	9
■車両切断時の注意と処置.....	12
4. 事故車運搬要領.....	14
■車両データ.....	14
■けん引要領.....	14
■けん引フック・タイダウン フック グロメット・12Vバッテリーの位置	15
高電圧注意標示	巻末

1. INSIGHTの見分け方

1. INSIGHTの見分け方

以下にINSIGHTの外観および特徴を紹介します。

事故車両が該当車種であれば、本書に記載の注意事項を遵守してレスキュー作業にあってください。

外 観

フロントフェンダーおよび後部にエンブレムがあります。



内 装



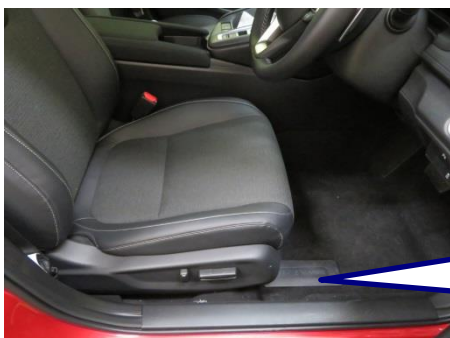
INSIGHTには、EVスイッチがあります。

型式による識別

運転席シート足元にて型式およびフレームナンバーが確認できます。フレームナンバーの前3ケタが型式になります。

表示例：ZE4-XXXXXXX（7桁の数字）

INSIGHTであることは、最初の3ケタの記号「ZE4」で識別できます。



運転席シート足元

打刻位置



リッドを開くと型式及びフレームナンバーが確認できます

2. ハイブリッド車について

2. ハイブリッド車について

INSIGHTの高電圧システムは、公称電圧222Vの高電圧を使用しています。
そのため、レスキュー活動にあたっては、高電圧に対する注意と対応が必要です。

▲ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分か どうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による 重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがある ときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- 事故処理後の車両保管時など関係者が車両から離れる場合、他の人がハイブリッド車と知らず に不用意に触れることがないように、車両には「高電圧作業中・触るな」の標示をして ください。(本書巻末の高電圧注意標示をコピーしてご活用ください)

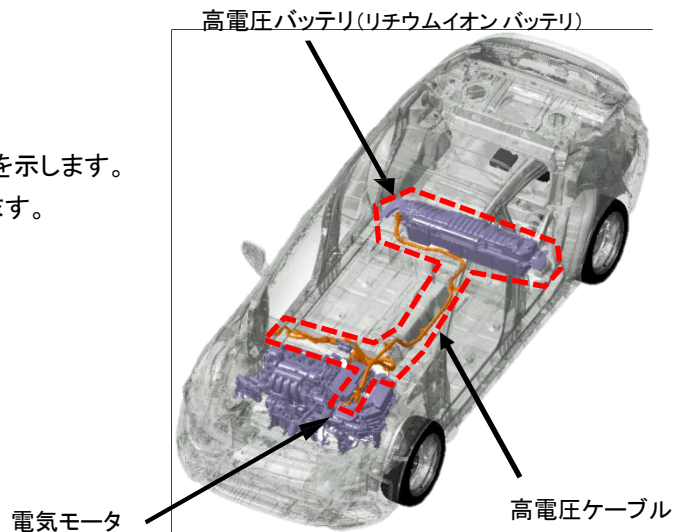
【準備品】INSIGHTのレスキュー活動にあたっては、あらかじめ以下の物を準備しておいてください。

- ①絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕
- ②ABC消火器
- ③耐溶剤用保護具〔ガスマスク(有機ガス用)、ゴム手袋(耐薬品用)〕
- ④ウエス、古タオル

■ 高電圧部位

INSIGHTの高電圧部位は、右図の通りです。

- イラスト中の点線で囲まれた部分が高電圧部位を示します。
- 高電圧ケーブルは、オレンジ色なので識別できます。



▲ 警告

- 車両の吊り上げやジャッキアップ時、フロア下側の高電圧ケーブルに物が当たらないようにしてください。高電圧ケーブルが破損または切断された場合、配線が露出し不用意に触れると、高電圧による重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。

2. ハイブリッド車について

■高電圧の隔離

INSIGHTは、高電圧が隔離されています。

- ・ 高電圧回路はプラス(+)/ マイナス(-)の両極とも車体と絶縁されています。
- ・ 高電圧機器、高電圧配線にはケースやカバーを設け、高電圧部分の露出をなくしています。
- ・ 高電圧電装部品およびリチウムイオン バッテリーは、リヤ シート下に集中的に配置し、ケースに収納されています。
- ・ エンジン ルーム内の高電圧配線もケーブル カバーにより隔離されています。
- ・ 高電圧配線はオレンジ色で識別されています。
- ・ 高電圧部分には注意ラベルを貼付しています。

■高電圧の遮断

INSIGHTは、高電圧を遮断できるシステムを備えています。

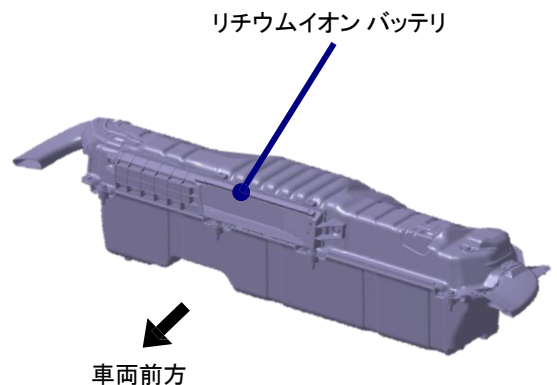
- ・ 衝突や水没などにより、短絡や過電流があった場合はバッテリー コントロール ユニットにより高電圧 は遮断されます。またヒューズが溶断することによっても高電圧が遮断されます。
- ・ 高電圧回路の遮断は、パワー スイッチに連動しています。パワー スイッチがOFFになることにより 高電圧回路は遮断されます。

■リチウムイオン バッテリーについて

INSIGHTは、12Vの自動車用バッテリーのほかに、高電圧のリチウムイオン バッテリー(駆動用電池)を搭載しています。公称電圧222Vのリチウムイオン バッテリーを使用しています。

リチウムイオン バッテリーは、ケースに収められリヤシート下に格納されていますので、通常はバッテリー本体は見えないようになっています。また、電解液もバッテリー内に密閉されていますので、交換・補充は不要です。

万一、リチウムイオン バッテリーが破損しても電解液は多量に流出するおそれはありません。液漏れした場合の処置 については、次項をお読みください。



⚠ 危険

- ・ 車両損傷などで高電圧部品内部の構成部品や高電圧配線の導体が露出していた場合は、絶対に 触らないでください。高電圧部品に 不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷 害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具[絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴]を着用してください。

2. ハイブリッド車について

■リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置

INSIGHTのリチウムイオン バッテリーの電解液には揮発性有機溶剤が使用されています。

また、無色透明のため見ただけでは判別できません。

リチウムイオン バッテリー付近に液漏れが確認され電解液が疑われる場合は、耐溶剤用保護具

[ガスマスク(有機ガス用)、ゴム手袋(耐薬品用)]を必ず着用し、乾燥したウエス等で漏れた液を 拭き取ってください。使用したウエス等は密閉できる袋や容器に格納し、産業廃棄物として適切に処理してください。

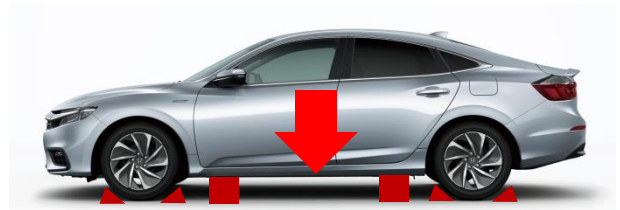
⚠ 警告

- ・リチウムイオン バッテリーの電解液は人体に有害なため、目に入ったり皮膚に付着すると失明 や傷害を受けるおそれがあります。万一、電解液が目に入ったり皮膚に付着した場合は直ちに多量の水で洗浄し、専門医の診断を受けてください。

■車両の固定および安定を図る際は

通常の車両と同様に、パーキング ブレーキをかけて 輪止めをしてください。

さらに安定させる場合は、車両の下に木片等の支持物を置いてタイヤの空気を抜くか、救出用リフト エア バッグ装置などを使用して車両を安定させてください。



⚠ 警告

- ・支持物やリフト エアバッグ装置は、フロア下の高電圧部分や、排気系・燃料系などを避けて 設置してください。高電圧部分の破損を招いたり、熱による予期せぬ火災の原因になるおそれがあります。

3. レスキュー作業時の注意

■ 処置概要

INSIGHTもガソリン エンジンを搭載しています。通常ガソリン エンジン車と同様の注意が必要なのはもちろんですが、ハイブリッド車固有の注意として高電圧に対する注意と処置が必要になります。

以下の各項目をよく読み、実際の作業時には状況に応じた対応をしてください。

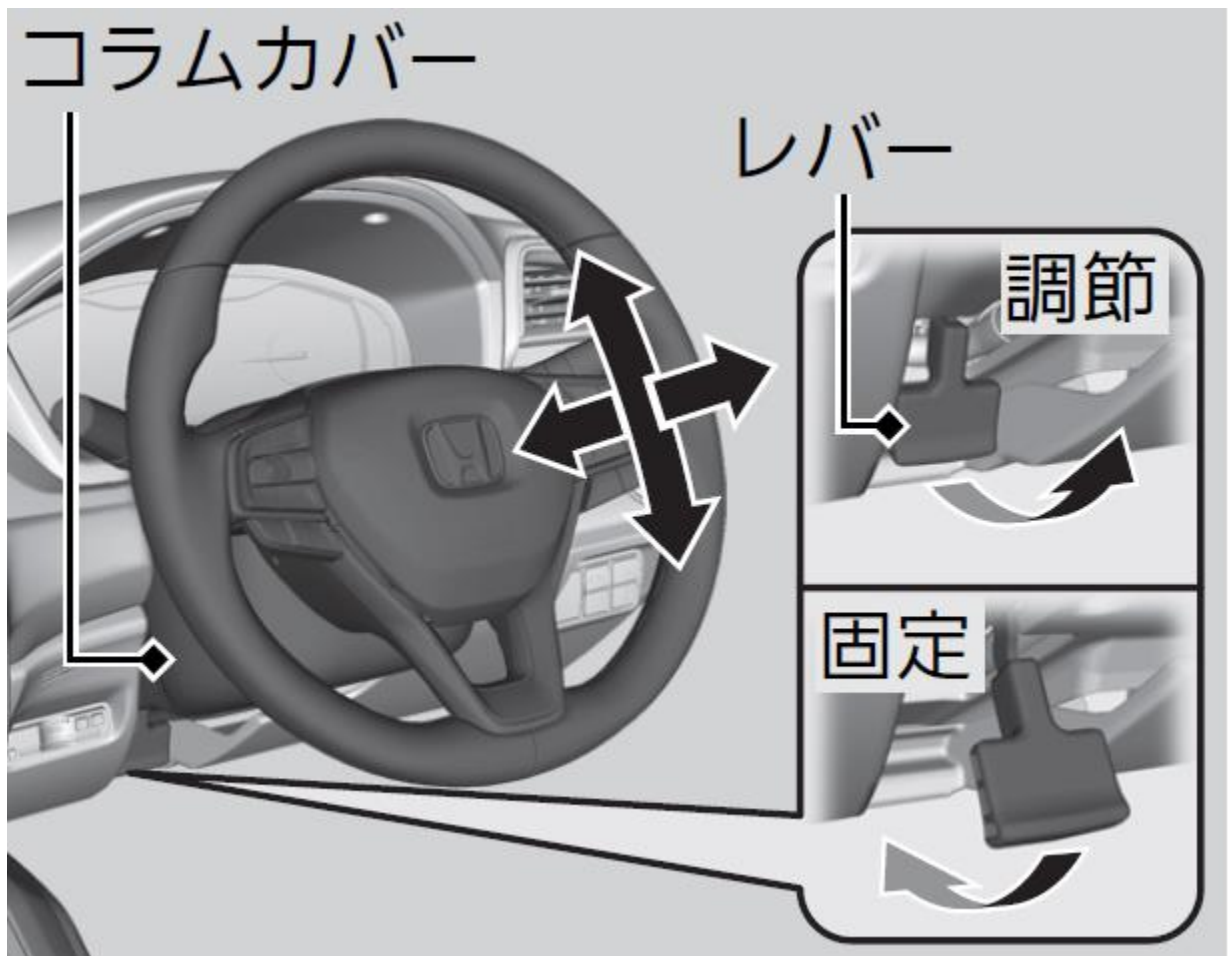
■ 補機類の事前処理

必要に応じて、パワー ウインドやパワーシート、ドア ロック、トランク等の操作を行ってください。

【重要】12Vバッテリーの接続を切り離すと、上記電装関係の操作が不可能になります。

■ 乗員を車室内から救助する際は

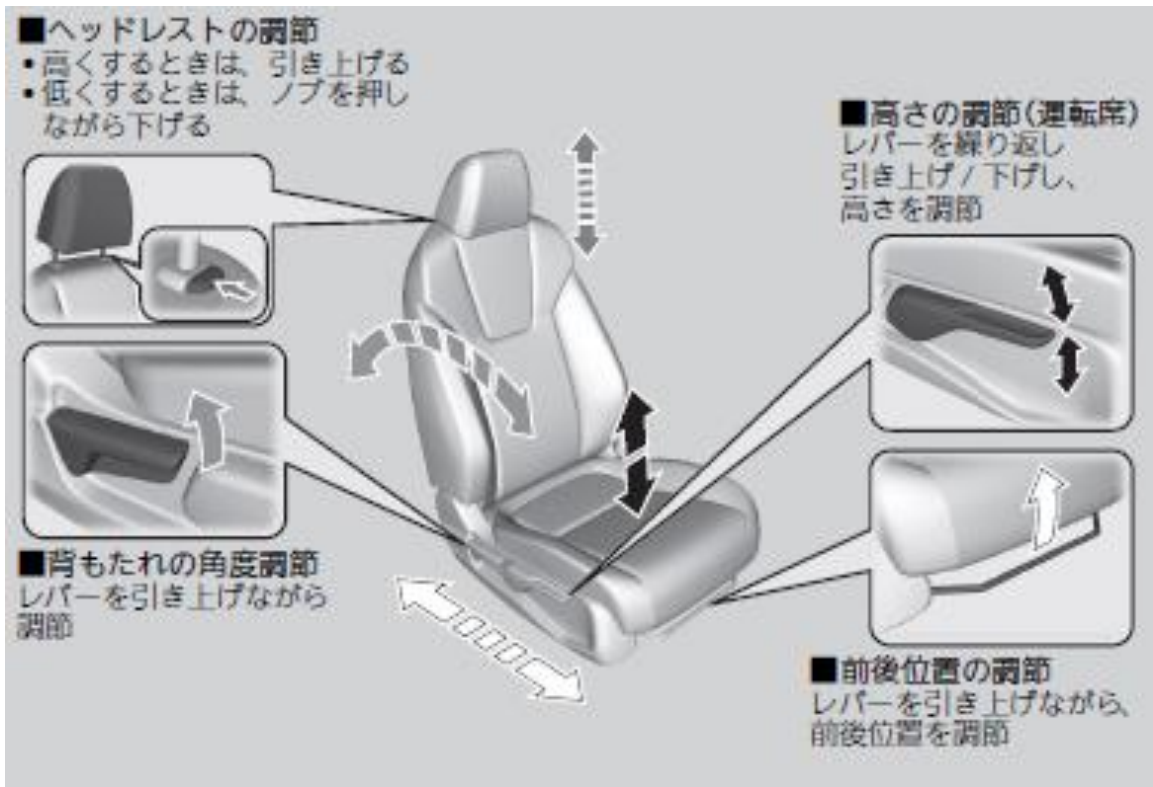
前席に座っている乗員救助のためにスペースを確保する必要がある場合は、ハンドルの位置を調整してください。



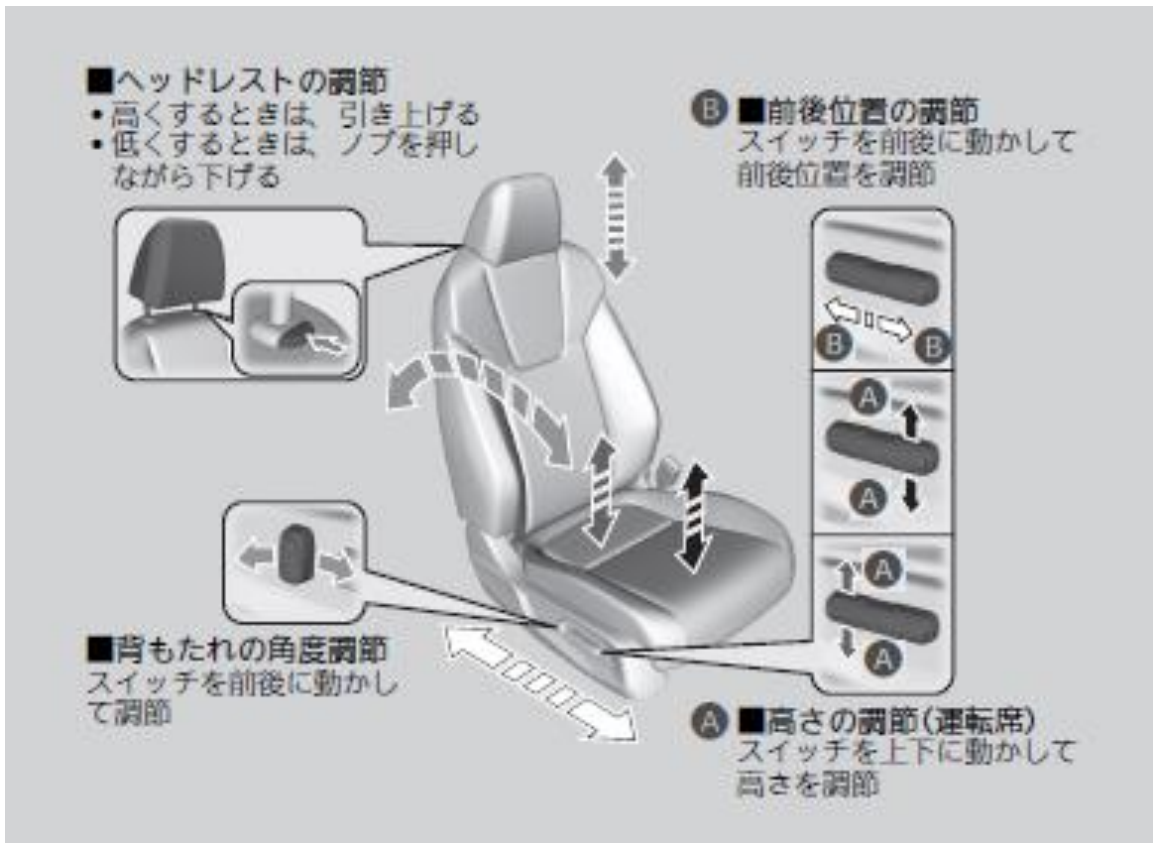
3. レスキュー作業時の注意

スペース確保の必要に応じてフロントシートの位置を調整してください。

◆マニュアル シートの操作方法



◆パワー シートの操作方法



3. レスキュー作業時の注意

■火災時の注意と処置

車両火災時には、バッテリーの冷却を兼ねて大量の放水により消火してください。大量の放水が困難な場合はABC消火器(油火災・電気火災の両方に対応するもの)により消火してください。

火災時は電気配線の絶縁被覆が燃えることにより回路がショートし、パワー系のヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。また、大量の放水による漏電によっても回路がショートし、パワー系のヒューズやリチウムイオン バッテリーのメイン ヒューズが溶断し、高電圧が遮断されます。

火災部位により、ヒューズが溶断しない、放水による漏電が起きないなど、状況によっては高電圧が遮断されない場合もありますので、消火後は9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

【参考】INSIGHTの高電圧システムに使用されている部品には、爆発性のあるものではありません。

■水没時の注意と処置

車両水没時、水の浸入による漏電で回路がショートすることにより、パワー系のヒューズやリチウムイオン バッテリーのメイン ヒューズが溶断して高電圧が遮断されます。

水深が浅い、水の浸入による漏電が起きない部位の水没など、状況によって高電圧が遮断されない場合 もありますので、可能な限り9ページの「高電圧システムの遮断方法」に従って高電圧を遮断してください。

■リチウムイオン バッテリー破損時の注意と処置

衝突などでリチウムイオン バッテリーが破損していた場合には、以下の警告を守ってください。

万一、液漏れが疑われる場合は、5ページの「リチウムイオン バッテリー液漏れ時の処置」の項に従って ください。

⚠ 警告

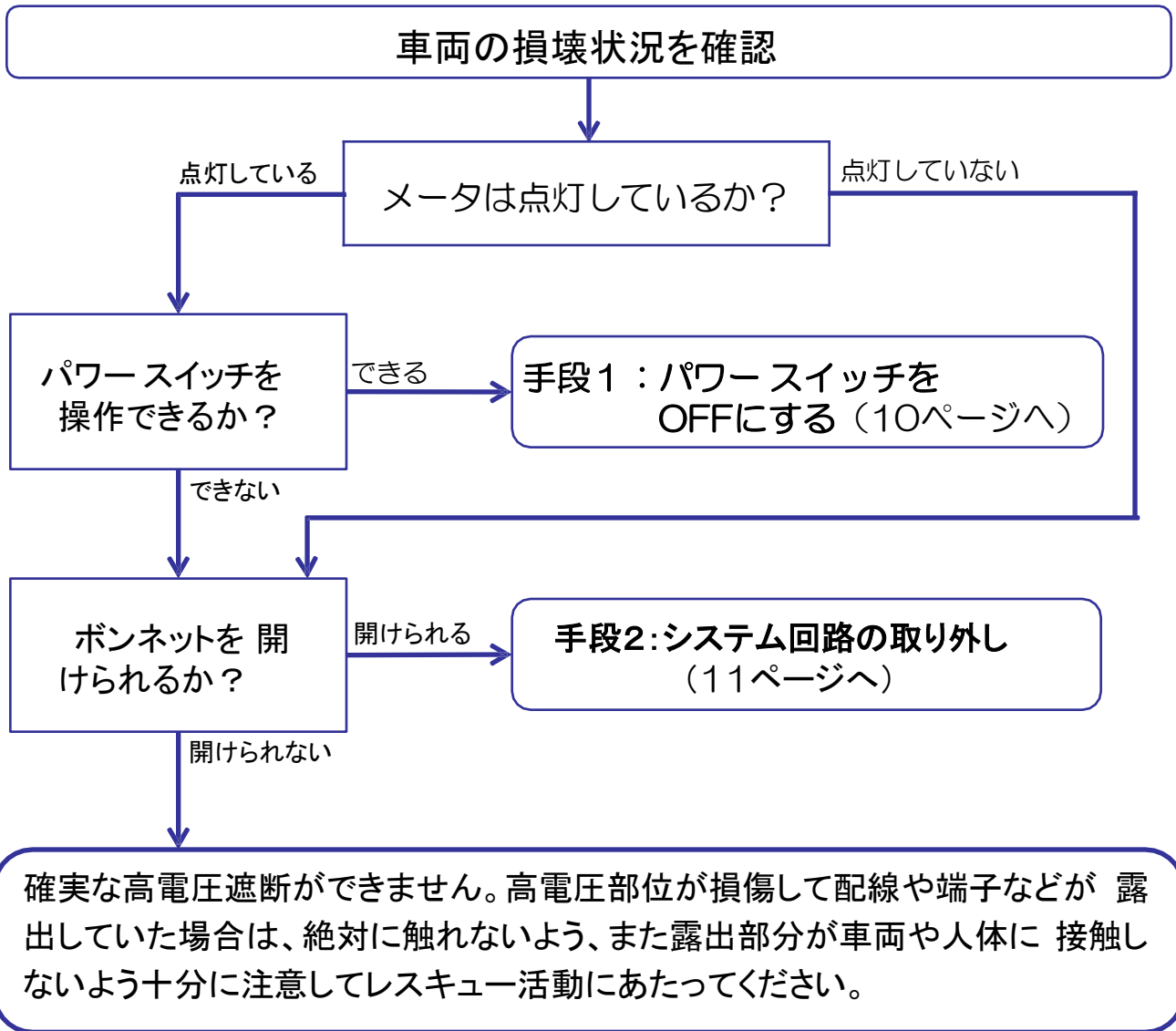
- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分か どうか 不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による 重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがある ときは、必ず絶縁保護具[絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴]を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

■高電圧システムの遮断方法

車両の損傷状況に応じて、高電圧を遮断してください。以下に紹介するどの方法でも高電圧は遮断できません。高電圧の遮断後は通常のレスキュー活動が可能です。

下図の流れに従って、最も容易な方法を選択してください。



警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分か どうか 不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による 重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがある ときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。

3. レスキュー作業時の注意

手段1: パワー スイッチをOFFにする

◆車両が損壊していても、パワースイッチ操作ができる場合 パワ

ー スイッチをOFFにしてください

- ①パーキングスイッチを押してください。
- ②パワー スイッチを約2秒以上押し続けて、OFF にします。

パーキング スイッチ



2秒以上長押し



▲ 注意

メータ内の表示が消灯状態でパワースイッチを操作するとシステムが起動する場合があります。

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください

メータ内の表示が全て消灯していることを確認してください。

※意図しない再始動を防ぐためにも、キーレス リモコンを車から最低でも6メートル離してください。



▲ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあたってください。

レスキュー活動を開始してください

3. レスキュー作業時の注意

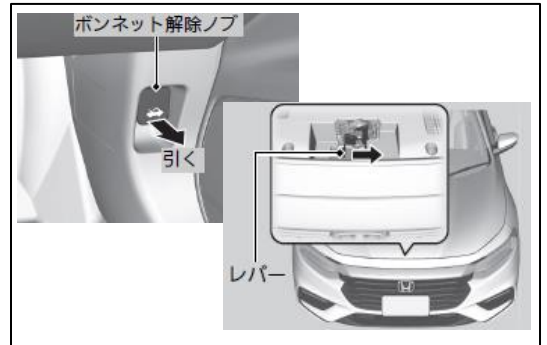
手段2: システム回路の取り外し

◆パワー スイッチ操作ができないが、ボンネットは開けられる場合 ボン

ネットを開けてください

運転席足元にあるボンネット解除ノブを手前に引き、浮き上がったボンネット前部中央にあるレバーを引き上げてロック機構を解除し、ボンネットを引き上げます。

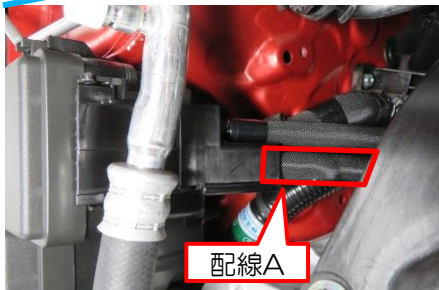
上記手順が実行できない場合は、パールなどでボンネットをこじ開けてください。可能ならば、開いたボンネットは備え付けのステーで固定してください。



エンジンルーム内の配線Aを切断してから配線Bを切断してください

INSIGHTでは、12Vバッテリーがセンターコンソール内に設置されています。

配線Aを切断し、絶縁処理をしたあとに配線Bを切断してください。



- ①リレーボックスに接続されている配線A（2本あるラインのフロント側）を切断してください。

※配線Aを切断した状態だと12Vバッテリーが活線状態のため、必ず絶縁処理を行ってください。



フロント方向



- ②配線B（黒いライン）を切断してください。

▲ 注意

パワー スイッチOFF後も、コンデンサ等に蓄えられた電荷の放電に約5分間を要します。高電圧遮断後は、回路のショート等に十分注意し作業にあってください。

レスキュー活動を開始してください

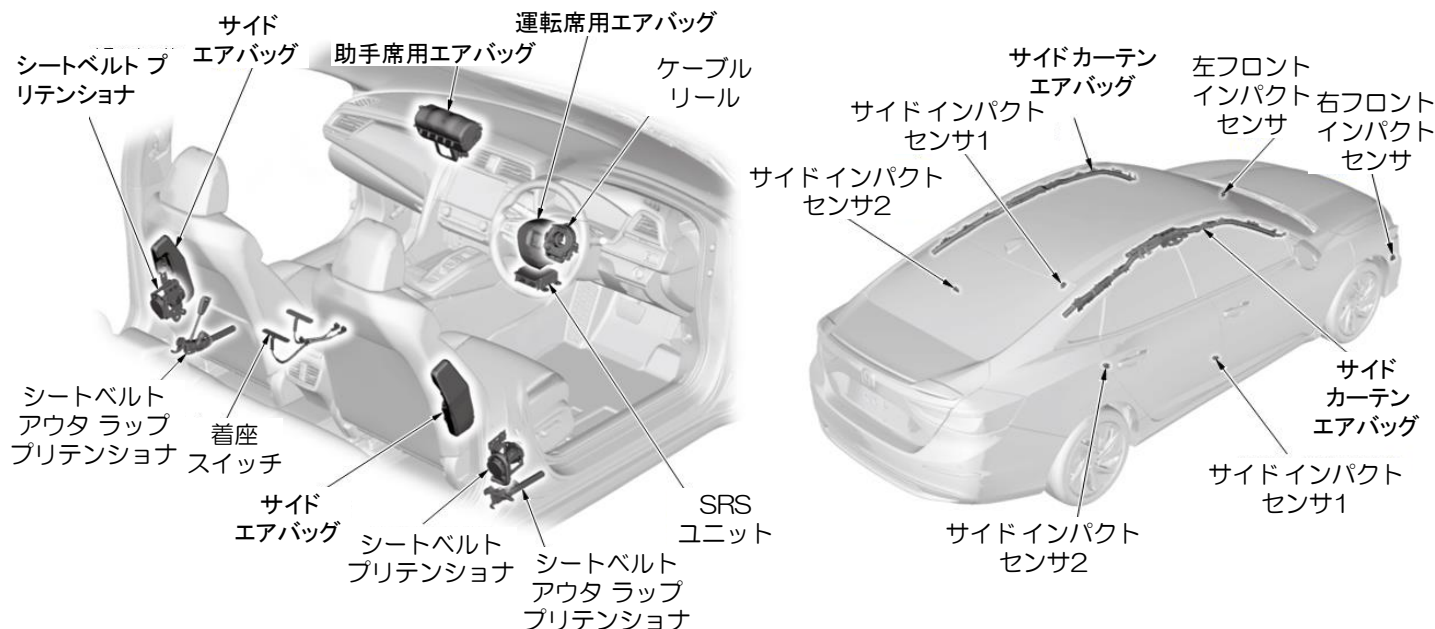
3. レスキュー作業時の注意

■車両切断時の注意と処置

▲ 警告

- ・ オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分かどうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具〔絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴〕を着用してください。
- ・ 高電圧部位は切断しないでください。高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ 未展開のエアバッグや未作動のシートベルトプリテンショナは切断しないでください。エアバッグやシートベルトプリテンショナには高圧ガス発生装置が装備されているため、切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。
- ・ エアバッグやセンサは切断しないでください。切断による配線のショートや衝撃等により、不意にエアバッグが展開すると、レスキュー作業時の2次災害を招くおそれがあります。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ エアバッグシステムは、パワースイッチOFFまたは12Vバッテリーの接続を外してから、3分間はシステムが機能しているため、必ず3分以上の経過を確認してから切断作業を行ってください。ただし、全てのエアバッグが展開済であれば問題ありません。
- ・ 火花による引火等により重大な傷害をおよぼすおそれがあるため、油圧カッターなど火花が飛ばない機器を使用して切断してください。

◆エアバッグ関連部品の位置



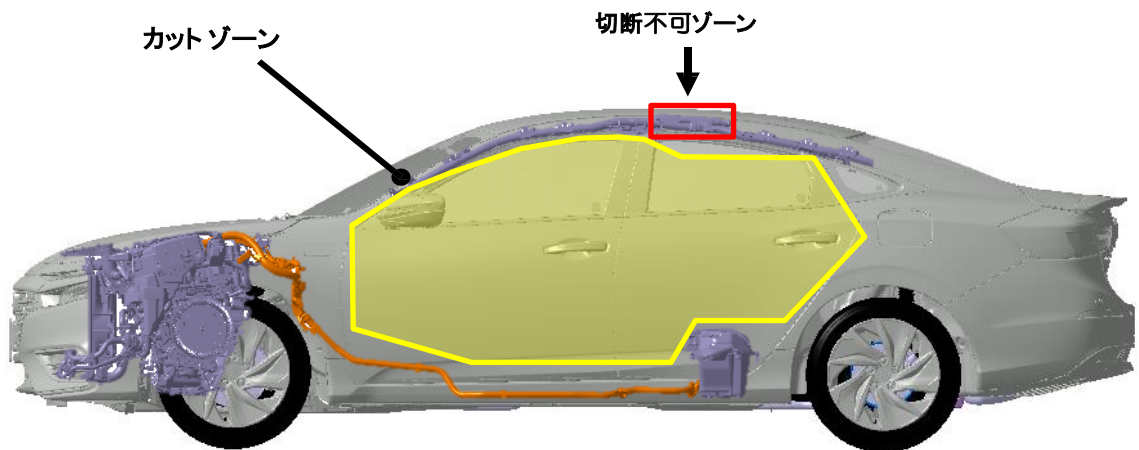
3. レスキュー作業時の注意

◆カットゾーン(切断可能領域)

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、下図のカットゾーンの範囲内で行ってください。

⚠ 警告

- ・車体側面にあるサイドカーテンエアバッグの高圧ガス発生装置部分近辺(下図の切断不可ゾーン)は、切断しないでください。切断すると重大な障害や死亡に至るおそれがあります。ただし、サイドカーテンエアバッグが展開済であれば切断しても問題ありません。

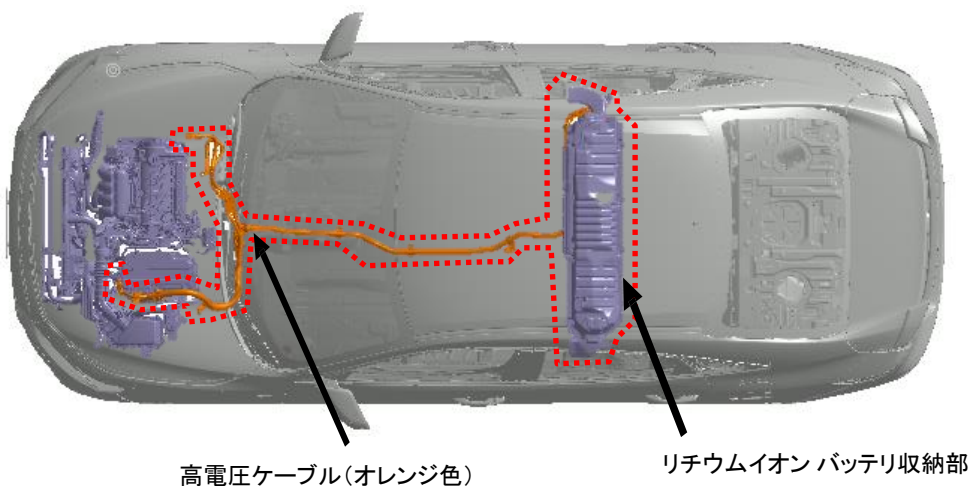


◆高電圧部品の位置

乗員救助のために車体を切断したり、油圧カッターなどを使う必要がある場合は、車体底面の高電圧ケーブルおよびリチウムイオンバッテリー付近を避けてください。

⚠ 警告

- ・高電圧部位は切断しないでください。特にリチウムイオンバッテリーは高電圧遮断後であっても切断により高電圧部分が露出すると、重度の火傷または感電による重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。



4. 事故車運搬要領

▲ 警告

- オレンジ色の高電圧ケーブルや高電圧カバーが破損し配線や端子などが露出していた場合、それらの露出部分には絶対に触れないでください。また、露出した配線や端子が高電圧部分か どうか不明な場合も、触れないでください。不用意に触れると、重度の火傷または感電による 重大な傷害や死亡に至るおそれがあります。
- やむを得ず高電圧ケーブルや高電圧部品の露出部分に触れる場合、または触れるおそれがあるときは、必ず絶縁保護具[絶縁手袋、保護メガネ、絶縁靴]を着用してください。

■ 車両データ

項目 車種	全長 (mm)	全幅 (mm)	全高 (mm)	ホイール ベース (mm)	車両重量 (kg)
INSIGHT	4,675	1,820	1,410	2,700	1,370～ 1,390*

*:グレードによって、車両重量は異なります。

■ けん引要領

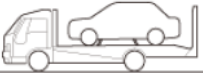



けん引は次の点を守って行ってください。

- けん引は四輪または前輪を持ち上げて行ってください。
- 車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- 車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- 速度は30km/h以下で、走行距離80km/h以内のけん引とすること（四輪を持ち上げてのけん引を除く）
- 道交法に従ってけん引すること。

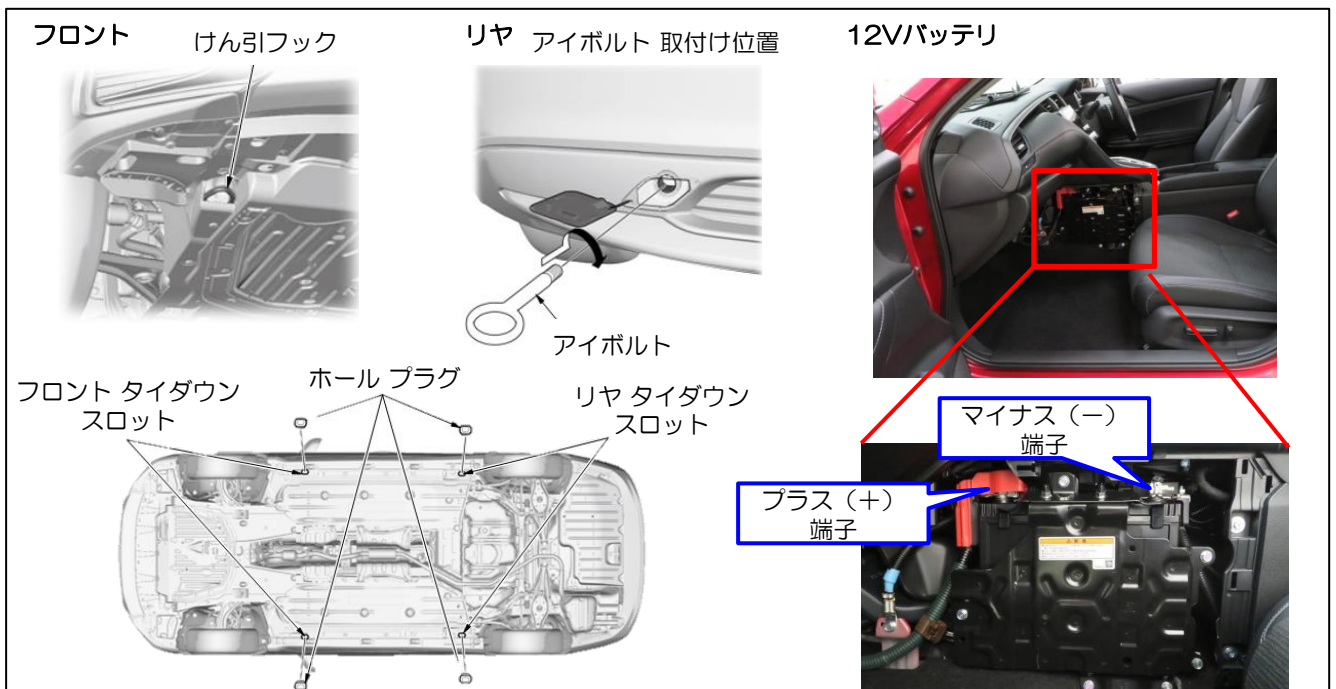
※本機種では、パワーモードをOFFモードにすると、パーキング ブレーキが自動で作動するよう
車両の設定を変更することが可能です
けん引の場合には、必要に応じて自動パーキングブレーキ作動機能をOFFにして、
パーキングブレーキがかからないようにしてください。

4. 事故車運搬要領

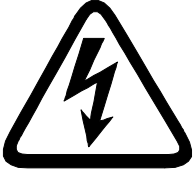
けん引は下表に従って行ってください。

けん引方法	駆動方式	シフト位置	条件または注意事項
	2WD		
・4輪を持ち上げてのけん引 	○	Pポジション	・車両が飛び出さないように必ず車両を固定すること ・パーキング ブレーキをかけること
・前輪を持ち上げてのけん引 	○	Nポジション	・パーキング ブレーキを解除すること 自動パーキングブレーキ作動機能をON/OFFする方法 ①パワーモードをONモードにする ②シフトポジションをPにする ③ブレーキを踏まずにパーキングブレーキスイッチを引き上げたままにする →ブレーキ警告灯が点灯していることを確認 ④ピーッ ピュー・・・と鳴り始めたら手をはなし、3秒以内に再びパーキングブレーキスイッチを引き上げる ⑤操作完了音が聞こえたらスイッチから手をはなす（パーキングブレーキの作動状態はブレーキ警告灯で確認してください） →ONになると「ピーッ ピュー」と鳴ります →OFFになると「ピー」と鳴ります
・トレッカによるけん引 			
・ロープによるけん引 	×	-	4輪（前輪）を地面に接した状態でのけん引は電動パワートレイン システム、駆動装置またはフロント バンパが破損する恐れがあるので、絶対に行わない

■けん引フック・タイダウンフックグロメット・12Vバッテリーの位置



表示
！ 触るな！
中業作五電高 

 **高電圧作業中**
触るな！ 担当 _____

コピーをとり、折って作業中に車両のルーフに表示する。

10M INSIGHT

INTEGRATED
MOTOR ASSIST **IMA**

10M INSIGHTの知識と レスキュー時の取り扱い



平成21年1月
本田技研工業株式会社
アフターマーケット品質部

目次

10M INSIGHTの

知識とレスキュー時の取り扱い

◇車両諸元	2
◇作業上の注意事項	3
●高電圧部位	
●高電圧回路の点検・整備上の注意	
●全般的な注意事項	
●衝突などで損傷を受けた車両の処置	
●メインスイッチの切り方	
●12Vバッテリー交換時	
●オートアイドルストップについて	
●12Vバッテリーあがりのとき	
◇けん引について	8

10M INSIGHTの知識

◇車両諸元

①自動車の種別・寸法・性能

- ・種別 四輪小型乗用自動車(4ドアハッチバック形)
- ・寸法 全長4,390mm 全幅1,695mm
全高1,425mm ホイールベース2,550mm
- ・車両重量 1,190kg(G・Lタイプ) 1,200kg(LSタイプ)
- ・燃料消費率
10・15モード 30km/ℓ(G・Lタイプ) 28km/ℓ (LSタイプ)
JC08モード 26km/ℓ(G・Lタイプ) 24km/ℓ (LSタイプ)
- ・乗車定員 5名

②エンジン

- ・種類 水冷直列4気筒 i-VTEC(VCM)
- ・総排気量 1,339cc
- ・最高出力 65KW(88PS) /5,800rpm
- ・最大トルク 121N・m(12.3kg・m) /4,500rpm

③モーター

- ・種類 交流同期電動機(薄型DCブラシレスモーター)
- ・最高出力 10KW(14PS)/1,500rpm
- ・最大トルク 78N・m(8.0kg・m) 1,000/rpm

④動力用主電池(「IMAバッテリー」)

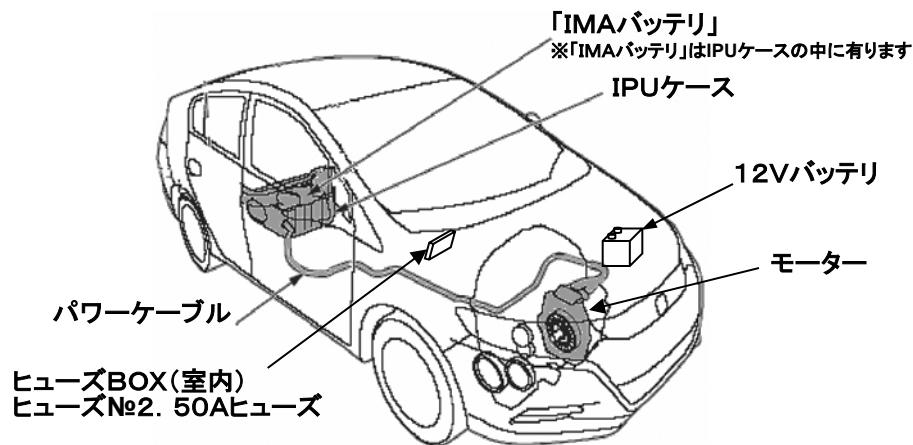
- ・種類 ニッケル・水素電池
- ・定格電圧 100.8V

⑤補機用電池(補機バッテリー)

- ・種類 シール型鉛蓄電池
- ・定格電圧 12V

◇作業上の注意事項

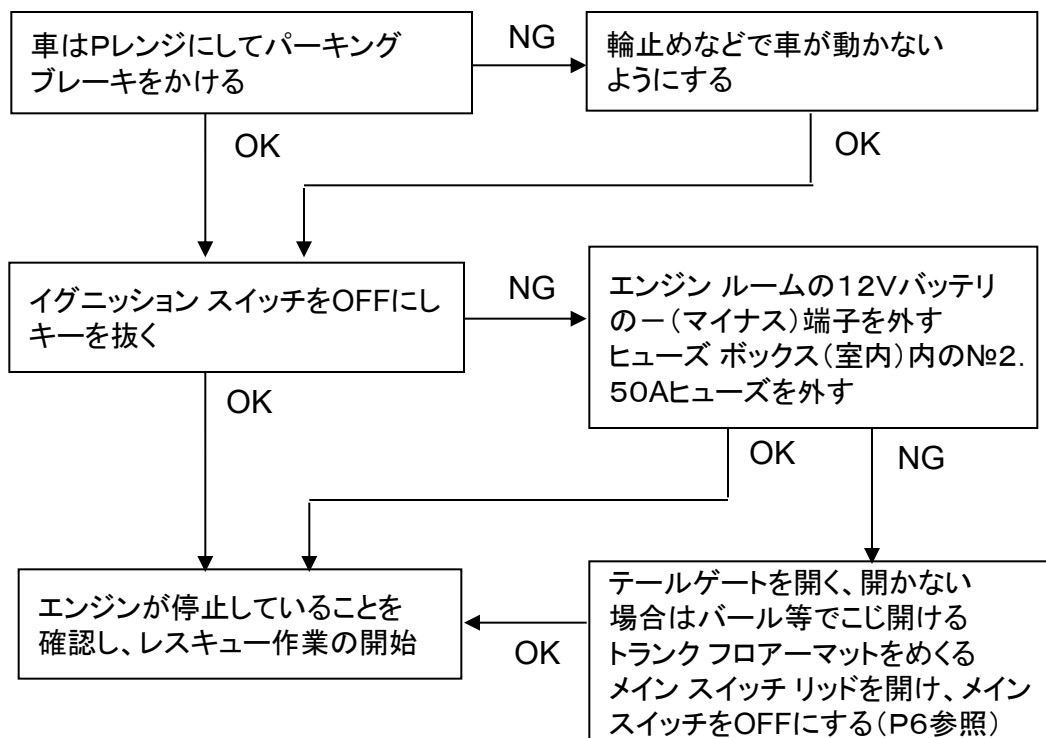
高電圧部位



■は高電圧部位

高電圧部位には△のマークがついています。また、高電圧回路のワイヤハーネスには橙色による識別がしてあります。

衝突などで損傷を受けた車両の処置概要



この機種特有の注意(IMAシステム)

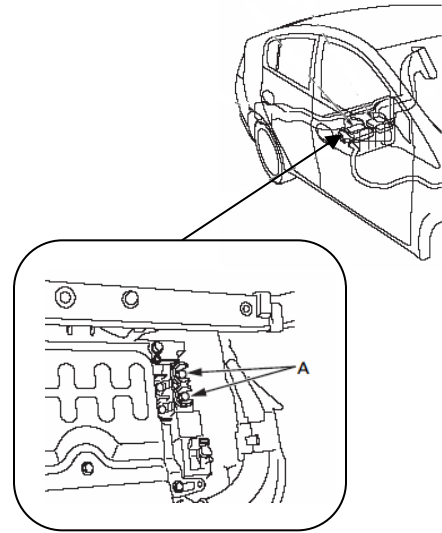
高電圧回路の点検・整備上の注意

高電圧回路に関わる点検・整備を行うエンジニアには労働安全衛生法第59条ならびに労働安全衛生規則第36条により特別教育の受講が義務付けられている。

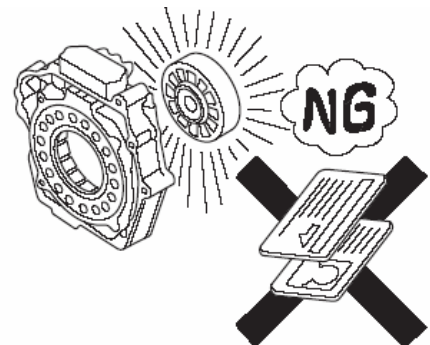
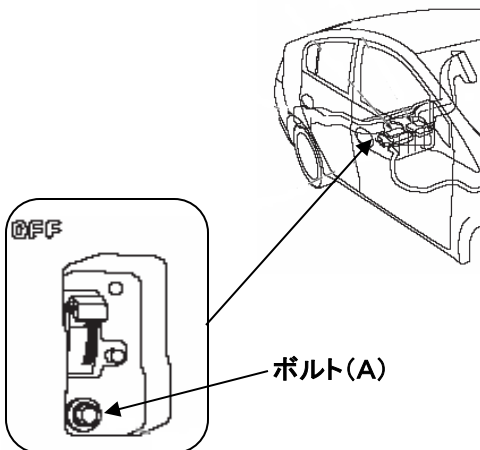
全般的な注意事項

- IMA(インテグレートド モーター アシスト)システムは高電圧(DC100.8V)回路が使用されているので点検・整備作業を行う場合は、電気回路遮断と絶縁措置を確実に実施すること。
- 高電圧回路のワイヤ ハーネスおよびカバーは橙色で識別されている。また、高電圧関連部品には、コーション ラベルが貼付けされている。これらの配線や部品には不用意に手を触れないこと。
- IMAシステムの点検・整備を行う場合は下記の指示に従うこと。
 - ・必要のある場合を除いて、イグニッション キーは必ず抜いておくこと。
 - ・作業を行う場合は、絶縁手袋を必ず着用し、絶縁工具類を使用すること。
また、絶縁手袋は使用前にピンホール、裂き傷などの損傷がないか確認すること。
 - ・作業を行う前にメイン スイッチをOFFにしボルト(A)が見えていることを確認する。
 - ・メイン スイッチをOFFにし5分以上経過してから作業を開始すること(コンデンサの放電に約5分間要するため)

- 高電圧端子の接続を外す前に、テストで端子間電圧(A)が30V以下になっているか確認すること。



- ・高電圧端子、バスバーなどを外した場合は、絶縁テープで絶縁処理を行うこと。
- ・絶縁被覆のない部品を作業する場合は、絶縁工具を使用し、短絡を防止すること。
- ・高電圧と強力な磁力のある部品が使用されているので、短絡の恐れのある金属製品や、磁気記録破壊の恐れのある磁気記録媒体(プリペイドカード・キャッシュカード等)を身につけて作業をしないこと。また、ペースメーカー等の電子医療機器装着者は磁力の影響を受けて大変危険なのでこのシステムの作業は絶対に行わないこと。



衝突などで損傷を受けた車両の処置

IMAシステムは高電圧(DC100.8V)を使用し、「IMAバッテリー」の電解液には強アルカリ性の水酸化カリウムを用いています。処理を誤ると感電・炎症などの重大な傷害を受けることがあるので、下記の要領で正しい作業を行うこと。

●準備品

- ①保護具(絶縁手袋又はゴム手袋・保護メガネ・安全靴)
- ②飽和ほう酸水20ℓ(粉末のほう酸800gを、容器に入れて20ℓの水で溶かす)※1
- ③赤色リトマス試験紙※1
- ④ABC消火器(油火災・電気火災の両方に対応するもの)
- ⑤ウエス・古タオル等(電解液拭き取り用)
- ⑥絶縁テープ
- ⑦電圧計

※1: ほう酸・リトマス試験紙は薬局でお求めいただけます。

●事故現場での処置要領

- ①絶縁手袋又はゴム手袋・保護メガネ・安全靴を着用する
- ②高電圧線かどうか不明のむき出しの配線には触れないこと。触れる場合、または触れる恐れのある場合は、絶縁手袋を着用し、テストでボディアースとの電圧を測定してから絶縁テープで絶縁する。
- ③車両火災が発生している場合はABC消火器で消化する。少量の水による消化はかえって危険な場合があるので、消化栓から大量に放水するか、消防隊の到着を待つ。
- ④車両が水に浸かっている場合は感電する危険があるので、高電圧システムの部品や配線には触れないこと、車両を完全に引き上げてから作業を開始する。
- ⑤「IMAバッテリー」付近の液漏れを確認する。液が漏れている場合は強アルカリ性の電解液である可能性が高いので触れないこと。やむなく触れる場合はゴム手袋と保護メガネを着用し、飽和ほう酸水で中和し、赤色リトマス試験紙が青に変化しないことを確認してからウエス等で拭取る。



電解液が目に入ったり皮膚に付着すると、失明や障害を受ける危険があるので充分注意すること。
万一、目に入ったり皮膚に付着した場合は、直ちに大量の水で洗浄した後、専門医の診断を受けること。

※「IMAバッテリー」のリサイクル

「IMAバッテリー」はリサイクルするために回収するので、廃棄しないこと。必ず「IMAバッテリー回収マニュアル」の指示に従って回収業者に渡すこと。

この機種特有の注意(IMAシステム)

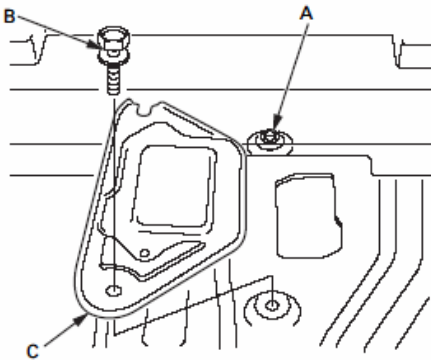
メイン・スイッチの切り方



IMAシステムの作業を行う前にメインスイッチをOFFし、電気回路を遮断すること。

※メインスイッチ リッド(メインスイッチの蓋)はトランクフロアのカーゴフロアボックスを取り外すと有ります。

- ①イグニッション キーを抜く。
- ②トランクフロアのカーゴリッド、カーゴフロアボックスを取り外す。
- ③ボルト(A)を緩め、ボルト(B)を取り外す。
- ④メインスイッチのリッド(C)を取り外す。



- ⑤メインスイッチをOFFにし、ボルト(A)が見えていることを確認する。

※メインスイッチにロック解除ボタン(OFF状態からONへの誤作動防止)が装着されています。

OFF



ボルト(A)

12Vバッテリー交換時

12Vバッテリーが上がったり、バッテリー ケーブル端子を外した場合、IMAバッテリー残量表示がエンジンを始動しても残量を表示しない。

この場合、30分程度走行すると正常な表示に戻る。

オートアイドルストップシステムについて

停車した際に、エンジンを自動的に停止させるオートアイドルストップシステムを採用している。

- ・Dポジションで12km/h以上の車速からブレーキペダルを踏んだまま停止したときに、システムが作動しエンジンは停止する。
- ・システムが作動した場合、ブレーキペダルを離すとエンジンは再始動する。
ブレーキペダルを踏んだままでも、セレクトレバーをL、Rポジションにすれば再始動する。

12Vバッテリーあがりのとき

●ジャンプスタートの方法

ジャンプスタートとは他の車の12Vバッテリーなどとブースターケーブルでつなぐことで電気を一時的に供給しエンジンをスタートさせる方法です。

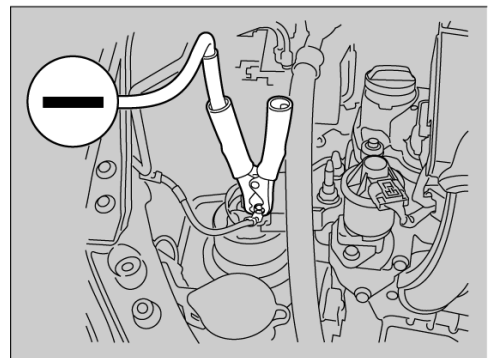
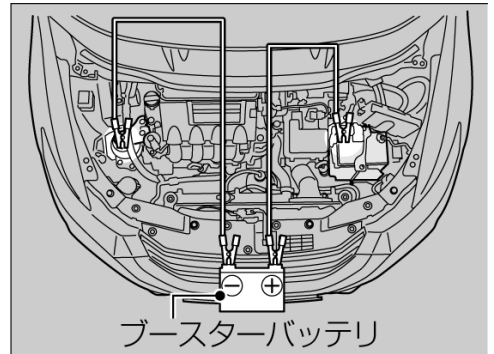
●処置のしかた

まず、ボンネットを開け、12Vバッテリーの状態を確認します。バッテリー液が凍っている場合はバッテリー液が溶けるまでジャンプスタートはできません。

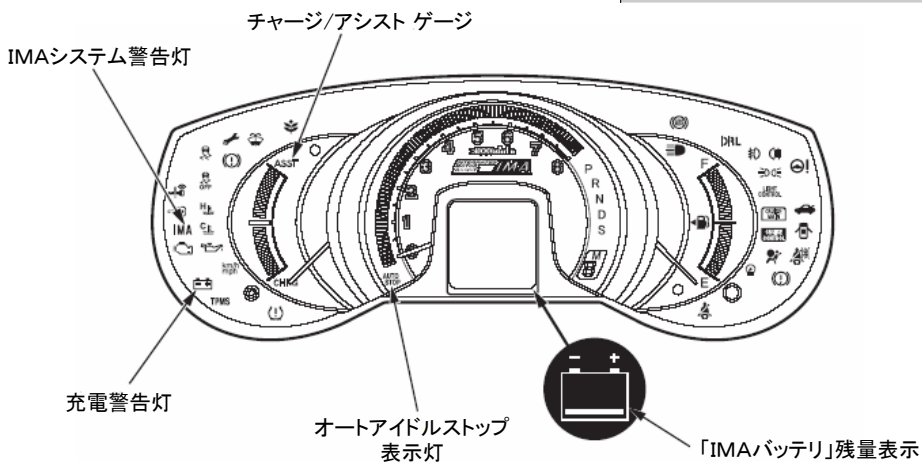
次に、オーディオやライトなどのアクセサリーの電源をOFFにしてください。ブースターケーブルのクリップは、エンジンの振動などで外れないように確実に固定してください。また、ケーブルの巻き込みに注意してください。

●ブースターケーブルは次の順番でつなぎます。

1. ブースターケーブルを、自車の12Vバッテリー⊕端子に接続する。
2. ケーブルの反対側を、救援車の12Vバッテリーの⊕端子に接続する。
▶ 救援車には、12Vバッテリーを装着している車を使用してください。
3. もう1本のブースターケーブルを、救援車の12Vバッテリー⊖端子に接続する。
4. ケーブルの反対側を、自車のエンジンのアース端子に接続する。
5. 救援車のエンジンを始動し、回転を少し高めにする。
6. 自車のエンジンをかける。
7. ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。



警告
 ジャンプスタートは、正しい手順で慎重に行う。
 ジャンプスタートの操作を間違えると、12Vバッテリーが爆発し、
 重大な傷害を受けるおそれがあります。
 タバコの火、火花、炎を12Vバッテリーから遠ざけ、
 正しい手順で操作してください。



12Vバッテリーがあがった場合、エンジンを始動して「IMAバッテリー」残量(BAT)が正確に表示されない。
 この場合30分程度走行すると正常な標示に戻る。

◇けん引について

けん引は次のことを守って行うこと。

- ・けん引ロープなどは、アイボルト以外に掛けないこと(アイボルトは緊急時のみ使用)
- ・車両に損傷を与えるけん引は行わないこと。
- ・速度は30km/h以下で、走行距離80km以内のけん引とすること(4輪を持ち上げてのけん引を除く)。
- ・車両を持ち上げるためにバンパを使用しないこと。
- ・前後の車輪が動かないときは、4輪を持ち上げてけん引すること。
- ・ニュートラルの状態にならない場合は、4輪を持ち上げてけん引すること
- ・道交法に従ってけん引すること。

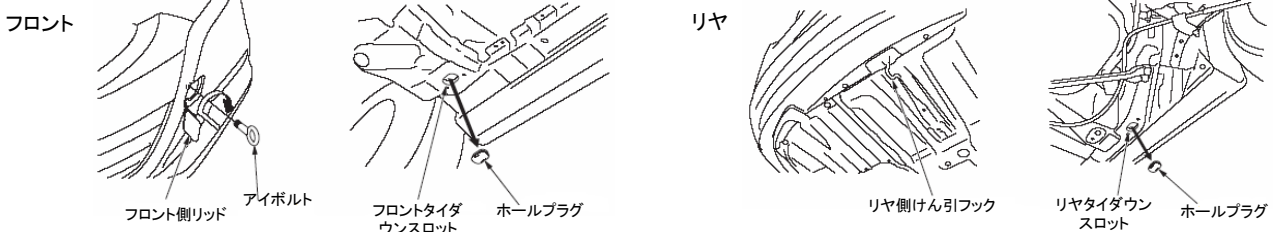
けん引は下記の表に従って行う

けん引方法	シフト位置	条件または注意事項
・ロープによるけん引 	Nポジション	①イグニッションスイッチをACC(I)またはON(II)にする ②パーキングブレーキを解除する。 CVTフルードの量がレベルゲージの上限と下限の間にあることを確認する。(下限より下がっている時は、前輪を持ち上げてけん引する)
・前輪を持ち上げてのけん引 	Nポジション	・パーキングブレーキを解除する。
・4輪を持ち上げてのけん引 	Pポジション	・車両が飛び出さないように必ず車両を固定する。 ・パーキングの状態にする。
・トレッカーによるけん引 	Nポジション	・パーキングブレーキを解除する。

アイボルト、けん引フック、タイダウン スロツルの位置

緊急時

- ・脱輪等で動けなくなった場合は、アイボルトまたはけん引フックにロープを掛けて引き出す。
- ・けん引フック使用時はロープがバンパおよびリップスポイラに干渉するので、ウエスなどを当て保護すること。



本マニュアルの内容は予告無く変更する場合があります。

